

特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」について

クビアカツヤカミキリは、平成24年頃から国内への侵入が確認され、ここ数年は東京、埼玉、群馬、栃木など近県にも侵入が広がり、その高い繁殖力から生態系に及ぼす影響が大きいとして、平成29年11月に特定外来生物に指定されました。

古河公方公園においては、令和元年7月に寄生を確認して以降、毎日の巡回による対策を徹底しています。具体的には、侵入孔から出るフラス（糞と木くずが混ざったもの）を発見次第、幼虫を可能な限り捕殺し、侵入孔や樹幹への薬剤処理、万一羽化した場合の防護ネットの設置などを行い、早期対応と被害の拡大防止に努めています。これらの取り組みは、専門家から「これだけ丁寧に駆除を行っている現場はない」との評価を受けています。

①幼虫の捕殺



②幹への薬剤注入



③防護ネット処理



①と②で羽化を防ぎ、③で成虫の飛散（繁殖）を防ぎます。

クビアカツヤカミキリ

■体長は2.5～4cm、成虫は全体的に光沢のある黒色で、胸部（クビ）が赤い。

■成虫は5月末～8月に発生、樹木の幹や枝の割れ目に産卵する

■幼虫は樹木の中で2～3年かけて成長し、蛹になる

■クビアカツヤカミキリが侵入した樹木からフラス（木くずとフンが混ざったもの）が排出され、やがて枯れてしまう。

※フラスは、かりんとう、ひき肉に似た形状です。

■バラ科の種類（桜、桃、梅など）を好む。

■古木、大木に付きやすい。



▲成虫 ▼フラス



▼クビアカツヤカミキリを見つけたら下記まで
公園内 > 公園管理事務所 0280-47-1129
古河市内 > 古河市環境課 0280-76-1511(代)

古河公方公園（古河総合公園）